

1 授業科目・単位

区分	授業科目の名称	聴講	単位数	時間数	授業形態			年次配置	
					講義	演習	実習	前期	後期
基礎分野	倫理と教育	可	2	30h	○	○		○	○
	情報と教育	可	2	30h	○	○		○	
	教育の原理	可	1	15h	○	○		○	
	青年期の発達と学習	可	1	30h	○	○		○	
	教育環境	可	1	15h	○	○		○	
専門分野	看護の本質と専門性Ⅰ（概論）	可	1	30h	○	○		○	
	看護の本質と専門性Ⅱ（概念規定）	不可	1	30h	○	○		○	
	教員と学生の理解	可	1	15h	○	○		○	
	看護学教育制度論	可	1	15h	○	○		○	
	看護学教育課程論Ⅰ （カリキュラム編成の基礎）	可	1	30h	○	○		○	
	看護学教育課程論Ⅱ （カリキュラム構造の理解）	不可	1	15h		○		○	
	看護学教育課程論Ⅲ （カリキュラム編成の実際）	不可	5	135h	○	○		○	○
	看護学教育授業展開論Ⅰ	可	1	30h	○	○		○	
	看護学教育授業展開論Ⅱ（講義）	講義のみ 可	4	135h	○	○	○	○	○
	看護学教育授業展開論Ⅲ（演習）	講義のみ 可	3	90h	○	○	○	○	○
	看護学教育授業展開論Ⅳ（実習）	講義のみ 可	3	105h	○	○	○	○	○
	看護学教育評価論	可	2	60h	○	○		○	○
	看護学教育研究Ⅰ（研究の基礎知識）	可	1	30h	○	○			○
	看護学教育研究Ⅱ（研究成果の活用）	可	1	30h	○	○			○
看護学教育組織運営論	可	1	15h	○	○			○	

看護学教員養成課程

科目区分	基礎分野		聴講	可	
授業科目名	倫理と教育				
授業形式	講義・演習	区分	必修		
開講時期	前期・後期	単位	2単位 30時間		
科目責任者	横山京子	その他			
担当教員	横山京子, 金谷悦子				
授業の概要	看護学の教育者は、看護倫理を基本に据えたいうで看護実践ができる看護職者の育成をする必要がある。この授業では、看護実践及び看護学教育実践における倫理的原則を理解し、看護学教育者として倫理指針となる知識・技術・態度を修得する。				
学科目的	医療、教育の現場における倫理的諸問題を理解し、教育学的視点から考察する。				
学科目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践及び看護学教育実践において遭遇する倫理的問題を理解する。 2. 看護実践及び看護学教育実践における倫理的原則の特徴を理解する。 3. 教育者としての倫理的責任を理解する。 4. 医療者、教育者として倫理的な行動をとる重要性について理解する。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	医療における人権に関する倫理	講義	必要に応じて学習課題を提示	金谷
	2	看護師の職業倫理	講義		金谷
	3	患者の権利に関する倫理	講義		金谷
	4	看護実践において遭遇する倫理的諸問題の分析を通し、看護師の倫理的責任と看護行為を検討する	講義 演習		横山 金谷
	5				
	6				
	7	成果発表			
	8	看護学教育における倫理指針（1）	講義		横山
	9	看護学教育における倫理指針（2）	講義		横山
	10	看護学教育における倫理指針（3）	講義		金谷
	11	事例検討	演習		横山
	12	看護学教育内容、方法における倫理	講義 演習		横山 金谷
	13				
	14	成果発表			
15	まとめ	講義	横山		
評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。				
参考書・参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・石井トク, 野口恭子:看護の倫理 資料集, 丸善, 2004. ・サラT.フライ著 片田範子, 山本あい子訳:看護実践の倫理, 日本看護協会出版会, 2000. ・INR日本版編集委員会:臨床で直面する倫理的諸問題, 日本看護協会出版会, 2004. ・石井トク:看護の倫理学 丸善, 2002. 				
備考					

科目区分	基礎分野	聴講	可
授業科目名	情報と教育		
授業形式	講義・演習	区分	必修
開講時期	前期	単位	2単位 30時間
科目責任者	狩野太郎	その他	
担当教員	狩野太郎, 星野修平		
授業の概要	適切に情報を活用し、適切な意思決定を行うためには情報メディアを活用し、情報を効率的に操作する能力（情報活用能力：メディアリテラシー）が重要となる。この授業では、情報処理の基本を学習し、基本的なソフトウェアの活用の演習を通して情報処理の原理・原則を理解するとともに、有効かつ適切な活用に必要な知識・技術・態度を修得する。		
学科目的	情報と意思決定の関係やメディアリテラシーの重要性を理解する。		
学科目標	1. さまざまな情報メディアを通して情報を活用する能力を身につける。 2. マルチメディアによる情報表現の手法を理解する。 3. 情報表現における倫理を理解する。 4. 情報を活用した教育を実践する意義を述べる。		
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法 事前・事後学習 (学習課題) 担当
	1	医中誌WebとJ-STAGEを用いた文献検索(USBメモリ持参のこと)	プリントによる学習課題を提示 狩野
	2	看護教育に必要な医療情報及びガイドラインの検索	必要に応じて学習課題を提示 星野
	3	教育におけるICT活用	
	4	インターネット(電子メール)の仕組みと教育利用	必要に応じて学習課題を提示 星野
	5	インターネット(Web活用、SNS)の仕組みと教育活用	
	6	インターネットを利用した学習、セキュリティと情報倫理	必要に応じて学習課題を提示 星野
	7	教育における著作権と情報モラル	
	8	教育における教材・文書作成の基本	プリントによる学習課題を提示 狩野
	9	表計算ソフトの基本操作	
	10	表計算ソフトによるデータ解析(1)成績処理業務	
	11	表計算ソフトによるデータ解析(2)差し込み印刷	
	12	表計算ソフトによるデータ解析(3)関数を用いた表計算	
	13	表計算ソフトによるデータ解析(4)ピボットテーブル	
	14	表計算ソフトによるデータ解析(5)図表作成の基礎	
	15	パワーポイントによるプレゼンテーションの基礎 実技試験	
評価方法	最終日の実技試験結果により評価する。		
参考書・参考文献等	講義中に適宜紹介		
備考			

看護学教員養成課程

科目区分	基礎分野	聴講	可		
授業科目名	教育の原理				
授業形式	講義・演習	区分	必修		
開講時期	前期	単位	1単位 15時間		
科目責任者	清水和夫	その他			
担当教員	清水和夫				
授業の概要	教育の目的や役割を理解するうえで、関連する法律の理解は不可欠である。本授業では、我が国の教育の現状と課題を踏まえ、教育と法律の関係について学び、教育の機能及び教師の法的責任について理解を深めるものとする。				
学科目的	教育学の基礎的・基本的内容について学び、学習の意義とその多様なあり方を理解する。				
学科目標	1. 教育の機能、目的、方法について基本的な知識を理解する。 2. 学校、教育課程、教師等に関する諸制度を理解する。 3. わが国の教育の現状における課題を考察する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	オリエンテーション・教育の機能と目的	講義・演習	必要に応じて学習課題を提示	清水
	2	教育法とは何か・・・教育六法の活用			
	3	教育法制理解と現代の教育問題の考察			
	4	アンケート調査から教育問題を検討する①			
	5	アンケート調査から教育問題を検討する②			
	6	様々な教育課題を検討する			
	7	わが国の今後の教育の在り方を考える			
	8	まとめ			
評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。				
参考書・参考文献等	・喜多明人他：解説教育六法2019，三省堂，2019				
備考					

科目区分	基礎分野	聴講	可		
授業科目名	青年期の発達と学習				
授業形式	講義・演習	区分	必修		
開講時期	前期	単位	1単位 30時間		
科目責任者	音山若穂	その他			
担当教員	音山若穂, 垣上正裕				
授業の概要	青年期の発達の特徴とそれに関わる教師の役割を学び、学習過程における対象者の心理的理解を深めるための理論や知識、技術を学習する。また、青年期における心の発達課題とその支援の在り方について考察する。				
学科目的	青年期の発達や学習過程を理解し、教育的支援を必要とする対象への理解を探る。				
学科目標	1. 成長発達に伴う学習者の心理を理解する。 2. 発達と教育、学習のメカニズム、学習過程や動機づけなど、教育場面に活用する方法を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	心理学とは何か	講義 演習	必要に応じて学習課題を提示 教科書は使用せず、毎回用意するレジュメを用いて講義を行う	音山
	2	人間の発達の諸相			
	3	青年期の発達			
	4	青年期とパーソナリティ			
	5	青年期のコミュニケーション			
	6	青年期に起こりうる健康問題と看護学の学習との関連	講義	必要に応じて学習課題を提示	垣上
	7	青年期に起こりうる健康問題と看護学の学習への影響と支援方法			
	8	学習のメカニズム	講義 演習	必要に応じて学習課題を提示 教科書は使用せず、毎回用意するレジュメを用いて講義を行う	音山
	9	学習とメタ認知			
	10	意欲、動機付け			
	11	協同学習			
	12	社会的スキルとリーダーシップ			
	13	教育評価とその方法			
	14	実践研究の検討			
15	全体的な討論				
評価方法	出席状況、授業参加状況、課題提出など総合的に評価する。				
参考書・参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・舟島なを他：看護のための人間発達学 第5版, 医学書院 ・佐藤浩一編著：学習の支援と教育評価, 北大路書房 				
備考					

科目区分	基礎分野	聴講	可		
授業科目名	教育環境				
授業形式	講義・演習	区分	必修		
開講時期	前期	単位	1単位 15時間		
科目責任者	高橋 望	その他			
担当教員	高橋 望				
授業の概要	<p>私たちを取り巻いている「環境」は、人間の成長・発達に大きな影響を与えている。「環境」には「人的」「空間的」「時間的」「動的」など、多様な側面があるが、それらの環境が正しく理解され、教育・学習の機会が適切に保障されなければ、人間のよりよい成長・発達、学びが阻害されている可能性がある。また、教育の場や機会は多様であり、近年では、教育の国際化や情報化により急速に変化している。</p> <p>本授業では、学びの場所や機会が、今どのような状態にあるのか、そこで問題となっていることは何か等、現代社会の教育環境に関する諸問題について、受講者とともに考えていく。</p>				
学科目的	現代社会の教育環境に関する諸問題について、自身の教育観を持つこと。				
学科目標	<p>○現代社会における教育問題について、理解すること。</p> <p>○現代社会における教育問題について、自分なりの意見を持ち、他者と議論できること。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	オリエンテーション	講義 演習	必要に応じて学習課題を提示	高橋
	2	教育の領域・場所・目的			
	3	教育政策			
	4	教育の制度・経営			
	5	教員の勤務と文化			
	6	学校組織・学校文化			
	7	教育環境の分析			
	8	教育環境改善のための手だての検討			
評価方法	出席状況、授業態度・貢献度、小課題等により、総合的に判断する。				
教科書	特になし				
参考書・参考文献等	特になし				
備考					

看護学教員養成課程

科目区分	専門分野	聴講	可		
授業科目名	看護の本質と専門性Ⅰ（概論）				
授業形式	講義・演習	区分	必修		
開講時期	前期	単位	1単位 30時間		
科目責任者	山下暢子	その他			
担当教員	山下暢子, 高橋裕子				
授業の概要	看護・看護職の歴史的発展及び看護理論について学習する。また、学際的学問としての看護学の特徴を理解し、看護の目標、対象、看護職の役割を学習する。				
学科目的	看護・看護職の歴史的発展・看護理論の学習を通して、看護学教育の基盤となる知識を修得する。				
学科目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護・看護職の歴史的発展を学習し、看護の目標、対象、役割と機能を理解する。 2. 看護学およびその実践の基礎となる理論を学習し、看護学の特徴を理解する。 3. 看護学教育を実践する上で看護・看護職の歴史的発展及び看護理論を学習する意義を見いだす。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	看護の起源と機能の変遷 －太古の昔からある看護の機能 看護職の起源と機能の変遷 －看護の機能分化による看護職者の成立	講義 演習	課題図書の該当箇所の精読 必要に応じて学習課題を提示	高橋
	2	看護の起源と機能の変遷 －太古の昔からある看護の機能 看護職の起源と役割・機能の変遷 －看護の機能分化による看護職の成立			
	3	看護の役割と機能（成果発表）			
	4	看護理論概説	講義 演習	課題図書の該当箇所の精読 必要に応じて学習課題を提示	山下
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11	キング「キング看護理論」			
	12	看護理論演習	演習	毎回、学習課題の提示	高橋
	13	看護理論演習			
	14	看護理論演習			
	15	成果発表			
評価方法	行動目標達成度により評価する（行動目標は別途提示）				
参考書・参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・フローレンス・ナイチンゲール著 薄井担子他訳：看護覚え書き，現代社，2000. ・ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯楨ます他訳：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会，2006. ・アイモジン・M. キング著 杉森みどり訳：キング看護論，医学書院，1985. ・日本看護協会編：新版 看護者の基本的責務－定義・概念／基本法／倫理，日本看護協会出版会，2019 . ・ジョセフィンA. ドラン著 小野泰博他訳：看護・医療の歴史，誠信書房，1978. 				
備考					

科目区分	専門分野	聴講	可		
授業科目名	看護の本質と専門性Ⅱ（概念規定）				
授業形式	講義・演習	区分	必修		
開講時期	前期	単位	1単位 30時間		
科目責任者	高橋裕子	その他			
担当教員	高橋裕子				
授業の概要	看護の本質と専門性Ⅰで学習看護・看護職の歴史的発展を基盤として、看護学の基礎概念である看護・人間・健康・環境について探究する。また、看護学教育を実践するためのカリキュラム編成の骨格となる理論的枠組みを構成する重要性を理解する。				
学科目的	カリキュラムを編成する上での主要概念を明確にする。				
学科目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践をする上での概念を明確にする。 2. 看護学の基本概念である看護、人間、健康、環境について理解する。 3. カリキュラム編成における概念規定の意義を見いだす。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	カリキュラムにおける概念規定	講義	必要に応じて学習課題を提示	高橋
	2	「看護」の概念規定	演習		
	3				
	4				
	5				
	6	「人間」の概念規定			
	7				
	8				
	9	「環境」の概念規定			
	10				
	11				
	12	「健康」の概念規定			
	13				
	14				
15	カリキュラム編成における概念規定の意義	講義			
評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 杉森みど里, 舟島なをみ: 看護教育学 第6版, 医学書院, 2016. ・ M.メイヤロフ(田村真、向野宣之訳): ケアの本質, ゆみる出版, 1971. ・ P.ベナー, M.サットンフェン, V.レオナード, R.デイ(早野ZITO真佐子): ベナー ナースを育てる: 医学書院, 2011. 				
参考文献等					
備考					

科目区分	専門分野	聴講	可		
授業科目名	教員と学生の理解				
授業形式	講義・演習	区分	必修		
開講時期	前期	単位	1単位 15時間		
科目責任者	山下暢子	その他			
担当教員	山下暢子, 河内直美				
授業の概要	教員の教授活動と学生の学習活動の関連は、教育の効果に影響を及ぼす。この授業では、看護学教育の対象者である学生を心身ともに理解し、教育活動を実践する意義について学習する。また、教員の発達過程の特徴と能力について理解する。				
学科目的	成人学習者としての学生を理解し、教員としての役割、機能、責務について学習する。				
学科目標	1. 看護学教育の対象である学生の特徴を理解する。 2. 看護学教育に携わる教員の特徴を理解する。 3. 学生を心身ともに理解し、看護学教育を実践する意義を学ぶ。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	授業の目的・目標及び授業計画の理解 受講者の学習ニーズ	演習	<事前学習> 本科目の概要・目的・ 目標を精読する	山下
	2	学生理解に必要な学習に関わる理論 学習意欲 成人学習理論 学習のレジリエンス	講義	<事前学習> 『看護学教育における 授業展開』の2ページ から3ページ「授業の 定義」、12ページから 22ページ「授業展開を 支える理論」を精読す る	
	3	学生の理解(1) 成人学習者としての特徴 看護学の初学者としての特徴		<事前学習> 『看護学教育における 授業展開』の55ページ から68ページを精読す る	
	4	学生の理解(2) 少数者としての特徴 —男子看護学生		<事前学習> 『看護学教育における 授業展開』の76ページ から80ページを精読す る	
	5	教員の理解(1) 授業展開に際し看護学教員が直面する問題 看護専門学校に所属する教員の特徴		<事前学習> 『看護学教育における 授業展開』の80ページ から85ページ、89ペー ジから93ページを精読 する	河内
	6	教員の理解(2) 新人教員の特徴	<事前学習> 『看護学教育における 授業展開』の85ページ から88ページを精読す る		
	7	第2回から第6回までの学習成果について グループ討議	演習	<事前学習> 第2回から第6回の学 習内容を復習する	
	8	成果発表		<事前学習> 学習成果の発表準備	
	課題	■終了後レポートの課題『教員と学生の理解を通して学んだこと』 成人学習者としての学生及び教員の理解に基づき教授活動を展開するという観点から、自己の課題を論述する。			
評価方法	出席状況、レポート課題など総合的に評価する。				
教科書	・舟島なをみ監修：看護学教育における授業展開, 医学書院, 2014.				
参考書・ 参考文献等	・Knowles, M. S.; 堀薫夫他監訳：成人教育の現代的実践—ベタゴジーからアンドラゴジーへ, 鳳書房, 2012. ・舟島なをみ：看護のための人間発達学 改訂第5版, 医学書院 ・Benner, P.; 井部俊子監訳：ベナー看護論 新訳版—初心者から達人へ, 医学書院, 2009.				
備考					

看護学教員養成課程

科目区分	専門分野	聴講	可		
授業科目名	看護学教育制度論				
授業形式	講義・演習	区分	必修		
開講時期	前期	単位	1単位 15時間		
科目責任者	山下暢子	その他			
担当教員	山下暢子, 服部美香, 河内直美, 町田理恵				
授業の概要	看護学教育に携わる看護職者は、看護学生を含むすべての看護職者の発達を支援し、質の高い看護を提供することを目指す必要がある。この授業では、看護職者の教育的背景を理解し、看護基礎教育の重要性と専門職者としての継続した教育の必要性を学習する。				
学科目的	看護師養成教育、看護学教育の歴史的な展開、法的基盤、制度を学ぶことにより、看護学教育の現状を理解する。				
学科目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師養成教育、看護学教育の現状と課題を理解する。 2. 実際の看護学教育と看護教育制度の関連を理解する。 3. 看護教育制度を踏まえた教育実践の必要性を認める。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	看護教育学の特徴 看護教育学の定義と理念 看護教育学と看護学教育 看護教育学を学習する意義	講義		山下
	2	看護教育学研究の意義と研究成果活用の 実際 看護教育学研究の目的と意義 看護教育学研究の成果と看護学教育への 貢献			服部
	3	看護学教育課程 看護基礎教育課程のカリキュラムの特徴 大学と専門学校のカリキュラムの相違 大学において看護学を学ぶ意義			山下
	4	看護師養成教育の現状と課題(1) 看護教育制度の成り立ち 看護教育制度の特徴			
	5	指定規則とカリキュラムの関係			河内
	6	看護師養成教育と看護教育制度の実際 (1)			町田
	7	看護師養成教育と看護教育制度の実際 (2)			
	8	看護師養成教育の現状と課題(2) 日本の看護教育制度の沿革 諸外国の看護教育制度の現状			山下
評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。				
教科書	杉森みど里, 舟島なをみ: 看護教育学 第6版, 医学書院, 2016.				
参考書・参考文献等	講義中、必要に応じて適宜提示する。				
備考					

看護学教員養成課程

科目区分	専門分野	聴講	可		
授業科目名	看護学教育課程論Ⅰ（カリキュラム編成の基礎）				
授業形式	講義・演習	区分	必修		
開講時期	前期	単位	1単位 30時間		
科目責任者	高橋裕子	その他			
担当教員	山下暢子, 松田安弘, 高橋裕子, 河内直美, 町田理恵				
授業の概要	看護学教育カリキュラム編成の基礎理論を学習し、看護学教員や看護職者として教育的機能を果たすための基盤となる知識を取得する。				
学科目的	科学的根拠に基づく看護学教育(EBNE:Evidence-Based Nursing Education)に必要なカリキュラム編成の基礎知識を理解する。				
学科目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学教育的機能を果たすために必要なカリキュラム編成に必要な知識を習得する。 2. カリキュラム編成の過程を理解する。 3. 統合カリキュラム編成に必要な知識を学習する意義を見いだす。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	カリキュラムとは	講義	課題図書「看護教育カリキュラムーその作成過程ー」の第1章～第5章の精読	山下
	2	統合カリキュラムの編成 方向付け段階	講義		松田
	3	統合カリキュラムの編成 形成段階			
	4	看護教育カリキュラムの作成過程(1章)	講義 演習		高橋
	5	看護教育カリキュラムの作成過程(2章)			
	6	方向付け段階の実際 ①	講義		町田
	7	方向付け段階の実際 ②			
	8	看護教育カリキュラムの作成過程(3章)	講義 演習		高橋
	9	看護教育カリキュラムの作成過程(3章)			
	10	形成段階の実際 ①	講義		町田
	11	形成段階の実際 ②			
	12	看護教育カリキュラムの作成過程(4・5章)	講義 演習		高橋
	13	統合カリキュラムの編成 機能・評価段階			
	14	機能・評価段階の実際	講義		町田
15	大学等の自己点検・組織としての評価	講義	河内		
評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。				
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・G.トレス他：看護教育カリキュラムーその作成過程ー，医学書院，1988. ・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学 第6版，医学書院，2016. 				
参考書・参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・看護行政研究会 編集：平成31年度版看護六法，新日本法規，2019. 				
備考					

看護学教員養成課程

科目区分	専門分野	聴講	可		
授業科目名	看護学教育課程論Ⅱ（カリキュラム構造の理解）				
授業形式	講義・演習	区分	必修		
開講時期	前期	単位	1単位 15時間		
科目責任者	高橋裕子	その他			
担当教員	松田安弘，高橋裕子				
授業の概要	各学校の教育課程を持ち寄り、理念、主要概念との各分野における教育内容との関係性を分析する。				
学科目的	教育内容の組織化とカリキュラムの分析を通して、カリキュラムの構造を理解する。				
学科目標	1. 看護師養成施設のカリキュラムを分析し、果たすべき教育的機能について考察する。 2. カリキュラム編成上、陥りやすい問題を明確化し、解決方法を考える。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	カリキュラムの分析（1）	講義 演習	課題図書（第6章） の精読 必要に応じて学習課題を提示	松田 高橋
	2	カリキュラムの分析（2）基礎分野			
	3	カリキュラムの分析（3）専門基礎分野			
	4	カリキュラムの分析（4）専門分野			
	5	カリキュラムの分析（5）専門分野			
	6	カリキュラムの分析（6）統合分野			
	7	カリキュラムの分析（7）統合分野			
	8	成果発表 まとめ			
評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。				
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・G.トレス他：看護教育カリキュラムーその作成過程ー，医学書院，1988. ・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学 第6版，医学書院 				
参考書・参考文献等	・看護行政研究会 編集：平成31年度版看護六法，新日本法規，2019				
備考					

科目区分	専門分野	聴講	可		
授業科目名	看護学教育課程論Ⅲ（カリキュラム編成の実際）				
授業形式	演習	区分	必修		
開講時期	前期・後期	単位	5単位 135時間		
科目責任者	高橋裕子	その他			
担当教員	高橋裕子				
授業の概要	看護学教育課程論Ⅰ（カリキュラム編成の基礎）の既習内容を活用し、実際に仮定の看護師養成教育機関の設置計画の作成、統合カリキュラム編成を体験する。また、その過程を通し、獲得した知識の定着をはかる。				
学科目的	カリキュラム編成に必要な知識を活用し、統合カリキュラム編成を実践的に展開する。				
学科目標	1. 看護学教育課程論Ⅰ・Ⅱの学習成果を活用し、統合カリキュラムを編成する。 2. 1)を通して、統合カリキュラム編成の意義、今後の課題を見出す。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	仮定の看護師養成教育機関の必要性についての討議	演習	必要に応じて学習課題を提示	高橋
	2	カリキュラム編成：方向付け段階(1)			
	3	教育理念、教育目標、主要概念、卒業生の			
	4	特性の明確化			
	5	カリキュラム編成：方向付け段階(2)			
	6	教育理念、教育目標、卒業生の特性の成文化			
	7				
	8	カリキュラム編成：方向付け段階(3)			
	9	内容の諸要素の抽出			
	10				
	11	カリキュラム編成：方向付け段階(4)			
	12	カリキュラム軸の抽出・理論的枠組みの作成			
	13				
	14	成果発表と討議			
	15	カリキュラム編成：形成段階(1)			
	16	カリキュラムデザインの決定			
	17	カリキュラム編成：形成段階(2)			
	18	レベル目標の設定			
	19				
	20	カリキュラム編成：形成段階(3)			
	21	学科目標の設定			
	22				
	23				
	24	カリキュラム編成：機能段階(1)			
	25	授業設計① テーマの決定			
	26	カリキュラム編成：機能段階(2)			
	27	授業設計② 目標の分析			
	28	カリキュラム編成：機能段階(3)			
	29	授業設計③ シラバスの作成			
	30	成果発表と討議			

授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	31	仮定の看護師養成教育機関の必要性の再検討	演習	必要に応じて学習課題を提示	高橋
	32				
	33				
	34				
	35				
	36	カリキュラム編成：形成段階(4) レベル目標の設定			
	37				
	38				
	39				
	40				
	41				
	42				
	43				
	44				
	45	カリキュラム編成：形成段階(5) 学科目標の設定			
	46				
	47				
	48				
	49				
	50				
	51				
	52				
	53				
	54	カリキュラム編成：形成段階(5) 内容の配置図作成			
	55				
	56				
	57				
	58				
	59	カリキュラム編成：形成段階(5) 学科目一覧表、カリキュラム構造図作成			
	60				
	61				
	62				
	63				
	64				
	65				
	66	成果発表			
	67				
	68	まとめ			
評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。				
参考書・ 参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・看護行政研究会 編集：平成31年度版看護六法，新日本法規，2019 ・G.トレス他：看護教育カリキュラムーその作成過程ー，医学書院，1988. ・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学 第6版，医学書院 				
備考					

看護学教員養成課程

科目区分	専門分野	聴講	可		
授業科目名	看護学教育授業展開論 I				
授業形式	講義・演習・実習	区分	必修		
開講時期	前期	単位	1単位 30時間		
科目責任者	松田安弘	その他			
担当教員	松田安弘, 高橋裕子				
授業の概要	授業は、学校の教育目標や学科目標と一貫性を持ち、設計し展開することが重要である。この授業では、授業の成立要件と基本形態、学科目標の達成を旨とした授業設計の過程について学習する。				
学科目的	授業設計に必要な基礎的知識を修得し、効果的な授業の展開に向けて系統的・体系的に授業を設計することの意義を見いだす。				
学科目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育に対する自己の信念を明確にする。 2. 授業の定義・形態、授業成立に必要な要件について理解する。 3. 教育目標の達成を旨とした授業設計の過程を理解する。 4. 授業展開に先立つ授業設計の必要性を認める。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	看護教育学の定義 看護教育学の理念	講義	必要に応じて学習課題を提示	松田
	2	教授者の教育に対する信念 (1)	演習		松田
	3	教授者の教育に対する信念 (2)			高橋
	4	教授者の教育に対する信念 (3)			
	5	教授者の教育に対する信念 (4)			
	6	授業の定義・形態・成立に必要な要件	講義		松田
	7	授業の実際(模擬授業の参加観察)	実習		松田
	8	授業の参加観察による学習成果	演習		高橋
	9	授業設計の過程 (1)	講義		松田
	10	授業設計の過程 (2)			
	11	授業設計の過程 (3)			
	12	授業設計の過程 (4)			
	13	授業設計の過程 (5)			
	14	授業設計の過程 (6)			
15	授業設計の過程 (まとめ)				
評価方法	学習状況、課題提出などを基に目標達成度を総合的に評価する。				
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・杉森みどり, 舟島なをみ: 看護教育学 第6版, 医学書院, 2016. ・舟島なをみ監修: 看護学教育における授業展開, 医学書院, 2014. 				
参考書・参考文献等					
備考	レポート: 授業を通して学んだこと・今後の課題				

科目区分	専門分野	聴講	可		
授業科目名	看護学教育授業展開論Ⅱ（講義）				
授業形式	講義・演習・実習	区分	必修		
開講時期	前期・後期	単位	4単位 135時間		
科目責任者	松田安弘	その他			
担当教員	松田安弘, 山下暢子, 服部美香, 高橋裕子, 河内直美				
授業の概要	講義は、理論や原理・原則を確認し、看護実践に必要な知識及び態度の習得を旨とする授業形態である。この授業では、講義の授業設計と展開に関する基礎的知識に基づく模擬授業と実習を通し、学習者の学習活動を促進する講義の構想計画と展開計画の立案・実施に必要な知識、技術、態度を学習する。				
学科目的	講義の授業設計と展開に必要な知識・技術・態度を修得し、教育目標の達成に向けた教授活動について自己の課題を明確にする。				
学科目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義における教授活動の特徴を理解する。 2. 授業設計と展開上生じやすい問題を理解する。 3. 講義の授業設計と展開の方法を理解する。 4. 1から3をもとに、教育目標の達成につながる効果的な授業（講義）を展開する。 5. 1から4をもとに、講義の設計と展開に関わる自己の課題を見いだす。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	講義の定義 講義の特徴	講義	必要に応じて学習課題を提示	松田
	2	講義の実際（参加観察） 「人間の発達と健康」各論Ⅴ	実習		
	3	講義の特徴（1）講義の特徴を踏まえた授業展開	演習		松田 高橋
	4	講義の特徴（2）講義の特徴を踏まえた授業展開			
	5	講義の特徴（3）講義の特徴を踏まえた授業展開			
	6	講義の特徴を反映した授業設計と展開（参加観察） 「人間の発達と健康」各論Ⅴ	実習		松田
	7	講義の特徴を踏まえた授業設計（1）	演習		松田 高橋
	8	講義の特徴を踏まえた授業設計（2）			
	9	講義の特徴を踏まえた授業設計（3）			
	10	講義の授業設計①	演習		松田 高橋
	11	講義の授業設計②			
	12	講義の授業設計③			
	13	講義の授業設計④			
	14	講義の授業設計⑤			
	15	講義の授業設計⑥			
	16	講義の授業設計⑦成果発表			
	17	講義の授業設計（模擬授業）	演習		松田 高橋
	18	各自講義内容を一つ決め、講義の授業設計を行う。			
	19				
	20				
	21				
	22				
	23				
	24				
	25				
	26				
	27				
	28	模擬授業（1人20分模擬授業、10分討議）			

授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	29	模擬授業（1人20分模擬授業、10分討議）	演習	必要に応じて学習課題を提示	松田 高橋	
	30					
	31					
	32					
	33					
	34					
	35	効果的な教授活動に向けた自己の課題	演習		松田 高橋	
	36					
	37	実習オリエンテーション	講義		松田	
	38	授業設計（実習校の講義）	演習		松田 山下 服部 高橋 河内	
	39					
	40					
	41					
	42					
	43					
	44	教育実習	実習			
	45					
	46					
	47					
	48					
	49					
	50					
	51					
	52					
	53					
	54					
	55					
	56					
57						
58						
59						
60						
61						
62						
63						
64						
65						
66						
67	効果的な教授活動に向けた自己の課題	演習	松田 高橋			
68						
評価方法	学習状況、課題提出などを基に目標達成度を総合的に評価する。					
教科書	・舟島なをみ監訳：看護学教育における授業展開，医学書院，2014. ・杉森みどり，舟島なをみ：看護教育学 第6版，医学書院，2016.					
参考書 参考文献等	・マリリンH.オーマン，キャスリーンB.ゲイバーソン著 舟島なをみ監訳：看護学教育における講義・演習・実習の評価，医学書院，2009.					
備考						

看護学教員養成課程

科目区分	専門分野	聴講	可		
授業科目名	看護学教育授業展開論Ⅲ（演習）				
授業形式	講義・演習・実習	区分	必修		
開講時期	前期・後期	単位	3単位 90時間		
科目責任者	松田安弘	その他			
担当教員	松田安弘, 高橋裕子				
授業の概要	演習は、講義で学んだ理論や原理・原則を確認し、看護実践に必要な知識、技術及び態度の習得を旨とする授業形態である。この授業では、演習の授業設計とその展開を学び、学習者の主体性を尊重した学習を促す授業計画の立案に必要な知識、技術、態度を学習する。				
学科目的	看護学演習の授業設計と展開に必要な知識・技術態度を修得し、教育目標の達成に向けた教授活動について自己の課題を明確にする。				
学科目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学演習の授業設計の方法を理解する。 2. 看護学演習における教授活動の特徴を理解する。 3. 1, 2をもとに教育目標の達成につながる効果的な授業展開について理解する。 4. 学生の主体的学習を促す演習の展開に向けた自己の課題を見いだす。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	オリエンテーション 授業形態「演習」の定義と種類	講義	必要に応じて学習課題を提示	松田
	2	看護学演習の授業設計（技術演習）	講義		
	3	看護学演習参加観察オリエンテーション	講義		
	4	技術演習Aに連動する講義の参加観察	実習	松田 高橋	
	5	技術演習A講義の参加観察による学習成果	演習		
	6	技術演習Aの参加観察①	実習		
	7	技術演習Aの参加観察②	演習		
	8	技術演習Aの参加観察による学習成果	演習		
	9	技術演習Aの参加観察による学習成果	演習		
	10	グループワークに連動する講義の参加観察 (看護学概論)	実習		
	11	技術演習Aの参加観察による学習成果	演習		
	12	グループワークの参加観察①	実習		
	13	グループワークの参加観察②	実習		
	14	グループワークの参加観察による学習成果	演習		
	15	グループワークの参加観察による学習成果	演習		
	16	技術演習Bの参加観察	実習		
	17	技術演習Bの参加観察	実習		

授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	18	技術演習Bの参加観察による学習成果	演習	必要に応じて学習課題を提示	松田 高橋	
	19	技術演習Bの参加観察による学習成果	演習			
	20	演習の参加観察による学習成果(まとめ)	演習			
	21	看護学演習の授業設計(技術演習)	講義		松田	
	22	授業計画案作成(模擬授業) 1G20分間	演習			
	23	・専門科目(看護技術演習)の演習を講義と連動していることを踏まえて設計する。	演習			
	24		演習			
	25		演習			
	26		演習			
	27		演習			
	28		演習			
	29		演習			
	30		演習			
	31		演習			
	32		演習			
	33		演習			
	34		演習の授業展開(模擬授業)		演習	
	35				演習	
	36				演習	
	37				演習	
	38				演習	
	39	演習				
	40	看護技術演習の模擬授業	演習			
	41		演習			
	42		演習			
	43		演習			
	44	効果的な演習展開に向けた課題	演習			
	45	効果的な演習展開に向けた課題	演習			
評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。					
参考書・参考文献等	・舟島なをみ監修：看護学教育における授業展開，医学書院，2014。 ・深井喜代子/前田ひとみ編集：基礎看護学テキスト 改訂第2版-EBN志向の看護実践，南江堂，2015，1					
備考						

科目区分	専門分野	聴講	可			
授業科目名	看護学教育授業展開論Ⅳ（実習）					
授業形式	講義・演習・実習	区分	必修			
開講時期	前期・後期	単位	3単位 105時間			
科目責任者	松田安弘	その他				
担当教員	松田安弘, 高橋裕子, 生涯発達看護学教育研究分野教員					
授業の概要	実習は、講義や演習で学んだ理論や原理・原則を確認し、看護実践に必要な知識、技術及び態度の習得を旨とする授業形態である。この授業では、実習の授業設計とその展開を学び、学習者の主体性を尊重した学習を促す授業計画の立案に必要な知識、技術、態度を学習する。					
学科目的	看護学実習の授業設計と展開に必要な知識・技術・態度を修得し、教育目標の達成に向けた教授活動について自己の課題を明確にする。					
学科目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学実習の授業設計の方法を理解する。 2. 看護学実習における教授活動の特徴を理解する。 3. 1、2をもとに教育目標の達成につながる効果的な授業展開について理解する。 4. 学生の主体的学習を促す実習の展開に向けた自己の課題を見いだす。 					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	実習指導上直面する問題 ①	講義 演習	必要に応じて学習課題を提示	松田 高橋	
	2	実習指導上直面する問題 ②				
	3	看護学実習における教授活動(1) 形成的評価に基づく指導	講義			松田
	4					
	5	看護学実習における教授活動(2) 現象の教材化				
	6	実習指導上直面する問題とその対処 ③	演習			松田 高橋
	7	看護学実習における教授活動(3) カンファレンス	講義			松田
	8	看護学実習における教授活動(4) 総括的評価				
	9	実習指導上直面する問題とその対処 ④	演習			松田 高橋
	10	看護学実習における教授活動(5) 実習記録へのフィードバック	講義			松田
	11	看護学実習における教授活動と学習活動の特徴				
	12	看護学実習における教授活動(6) オリエンテーション				
	13	看護学実習における教授活動(7) 実習指導者との連携	講義			松田
	14	授業設計と授業計画の立案	演習			
	15	授業計画の作成(現象の教材化)				
	16					
	17					
	18					
	19					
	20					
	21	授業計画の作成(教育実習の準備)		演習	松田 高橋	
	22					
	23					
	24					
	25					
	26					

	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
授業の内容と方法	27	教育実習	実習	必要に応じて学習課題を提示	松田 高橋
	28	教育実習			
	29	教育実習			
	30	教育実習			
	31	教育実習			
	32	教育実習			
	33	教育実習			
	34	教育実習			
	35	教育実習			
	36	教育実習			
	37	教育実習			
	38	教育実習			
	39	教育実習			
	40	教育実習			
	41	教育実習			
	42	教育実習			
	43	教育実習			
	44	教育実習			
	45	教育実習			
	46	教育実習			
	47	教育実習			
	48	教育実習			
	49	教育実習			
	50	教育実習			
	51	効果的な教授活動に向けた自己の課題	演習		高橋
	52	効果的な教授活動に向けた自己の課題			
	53	効果的な教授活動に向けた自己の課題			
評価方法	行動目標達成度により評価する（行動目標は別途提示）				
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・舟島なをみ監修：看護学教育における授業展開，医学書院，2014. ・杉森みどり，舟島なをみ：看護教育学 第6版，医学書院，2016. 				
参考書 参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・マリリンH. オーマン，キャスリーンB. ゲイパーソン著 舟島なをみ監訳：看護学教育における講義・演習・実習の評価，医学書院，2009. 				
備考					

科目区分	専門分野	聴講	可			
授業科目名	看護学教育評価論					
授業形式	講義・演習	区分	必修			
開講時期	前期・後期	単位	2単位 60時間			
科目責任者	服部美香	その他				
担当教員	服部美香, 高橋望					
授業の概要	教育目標の達成を目指して行う教育活動において、学生の知識・技術・態度の習得状況や教授過程のフィードバックによる総合的な授業の価値判断を行うことが必要である。この授業では、教育評価の機能及び形態を学習し、看護学教育実践を行う上で必要な評価方法について学習する。					
学科目的	科学的根拠に基づく看護学教育(EBNE: Evidence-Based Nursing Education)を実践する上で必要な教育評価の基礎理論、知識を理解する。					
学科目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象に応じた評価方法と用具を使用した評価の方法を理解する。 2. 大学および専修学校の自己点検・評価について理解する。 3. 看護学教育に必要な教育評価の知識・技術・態度を習得する必要性と意義を述べる。 					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	導入：教育評価の意義と機能	講義	必要に応じて学習課題を提示	高橋	
	2	教育評価の原則				
	3	教育評価の方法				
	4	学習理論と評価				
	5	実習と教育評価				
	6	教育評価の事例から考える ①				
	7	教育評価の事例から考える ②				
	8	教育評価の事例から考える ③				
	9	看護学教育評価の特徴と方法	講義	文献A) 1-9頁、25-40頁を精読する	服部	
	10	評価に用いる測定用具の要件				
	11	教育活動の評価 授業過程の評価とその実際①	演習	学習課題を提示する		
	12					
	13	授業過程の評価とその実際②	演習			
	14					
	15	学習活動の評価 1 教育目標分類学に基づく目標設定①	講義	文献A) 10-23頁を精読する		
	16					
	17	学習活動の評価 2 形成的評価に用いる方法	講義	学習課題を提示する		
	18		学習活動の評価 3 総括的評価に用いる方法とその実際①			演習
	19					
	20					
	21					
	22		総括的評価に用いる方法とその実際②			演習
	23					
	24					
	25					
	26	総括的評価に用いる方法とその実際③				
	27					
	28					
	29					
30	大学および専修学校の自己点検評価・まとめ	講義				
評価方法	グループワークへの取り組み、課題レポートなどに基づき、総合的に評価する。					
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・文献A) 舟島なをみ監訳：看護学教育における講義・演習・実習の評価，医学書院，2009 ・文献B) 舟島なをみ監修：看護学教育における授業展開，医学書院，2014 					
参考書・参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・杉森みどり，舟島なをみ：看護教育学 第6版，医学書院，2016. ・梶田叡一：教育評価 第2版補訂2版，有斐閣，2010. ・橋本重治：2003年度改訂版 教育評価法概説，(財)応用教育研究所，2003. 					
備考						

科目区分	専門分野	聴講	可		
授業科目名	看護学教育研究 I (研究の基礎知識)				
授業形式	講義・演習	区分	必修		
開講時期	後期	単位	1単位 30時間		
科目責任者	松田安弘	その他			
担当教員	松田安弘, 大澤真奈美, 飯田苗恵, 上山真美, 高橋裕子				
授業の概要	学術研究の領域と方法論、看護学教育に関する研究にはどのようなものがあるか、その特徴を学習する。研究成果の活用には有効な論文を選択するためには、論文全体を読解することが不可欠である。この授業においては、看護学研究の理解、研究過程と研究論文の理解など研究成果活用に必要な基礎的知識を学習する。また、看護基礎教育課程における研究指導の方法について学習する。				
学科目的	看護学教育における研究の特徴、および研究成果活用に必要な基礎知識を理解する。				
学科目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学研究に用いられる基本的な用語を理解する。 2. 研究過程と研究デザインを理解する。 3. 看護基礎教育における研究指導の方法を理解する。 4. 看護学研究の意義を認める。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	看護学研究の定義と意義 研究過程と研究論文の構成要素	講義	『看護における研究』第1章を精読する	松田
	2	研究論文の理解	講義		松田
	3	探究レベルと研究の特徴 (因子探索研究)	講義 演習		大澤
	4	探究レベルと研究の特徴 (関係探索研究)	講義 演習		大澤
	5	探究レベルと研究の特徴 (関連検証研究)	講義 演習		飯田
	6	探究レベルと研究の特徴 (因果仮説検証研究)	講義 演習		飯田
	7	論文の精読による研究の基礎的知識の理解 (1)	講義 演習		上山
	8	論文の精読による研究の基礎的知識の理解 (2)	講義 演習		上山
	9	看護基礎教育における研究関連科目とその課題	講義		松田
	10	研究指導の方法 (1)	演習		松田 高橋
	11	研究指導の方法 (2)			
	12	研究指導の方法 (3)			
	13	研究指導の方法 (4)			
	14	研究指導の方法 (5)			
	15	研究指導の方法 (6)			
評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。				
教科書	南裕子, 野嶋佐由美編: 看護における研究 第2版, 日本看護協会出版会, 2017				
参考書・参考文献等	山崎茂明他: 看護研究のための文献検索ガイド 第4版増補版, 日本看護協会出版会, 2010.				
備考					

科目区分	専門分野		聴講	可			
授業科目名	看護学教育研究Ⅱ（研究成果の活用）						
授業形式	講義・演習	区分	必修				
開講時期	後期	単位	1単位 30時間				
科目責任者	横山京子	その他					
担当教員	横山京子、高橋裕子						
授業の概要	この授業では、看護学教育における実践上の問題解決に向けて看護学研究を検索し、成果を活用するための方法を学習する。学生は、看護学教育の学習を通して日々感じている問題を明らかにする。また、グループを形成し、焦点化したテーマ（問題）に関連する文献検索を通して学術的に解決する過程を体験する。						
学科目的	看護学教育における実践上の問題解決に向けて看護学の成果を活用する過程を理解し、その意義を認める。						
学科目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 問題解決に向けて、看護学研究を検索し、成果を活用するための方法を理解する。 2. 看護学教育の学習を通して感じている問題からグループテーマを焦点化し、看護学研究の成果を活用した問題解決過程を実施する。 3. 看護学研究の成果を活用した問題解決過程の価値を認める。 4. 看護学研究の成果を教授活動に活用するための課題を考察する。 						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当		
	1	I. 研究成果活用の意義と実際 －看護学教育と研究成果 －研究成果活用の過程 －研究成果活用による看護教育実践上の問題解決	講義	<事前学習> 看護学教育の学習を通じ感じている問題を指定用紙に記載し提出する。	横山		
	2	II. 研究成果活用のための文献検索 －研究成果を入手する方法	講義	<事前学習> 『看護における研究』第3章を精読する	横山		
	3	問題解決過程の体験（グループワーク） ①グループにおける問題の共通性による問題解決に向けたテーマの焦点化・成文化（グループ討議）	演習	演習と平行し、グループ討議に向け、各自文献を精読・要約し、文献カードに整理する。	横山 高橋		
	4	②問題解決に向けた文献検索の実際と文献入手					
	5	③文献精読による内容の理解、文献整理					
	6	④問題解決に向けた文献の選択 ⑤選択した看護学研究の共通点・相違点の明確化 ⑥学習成果発表に向けた内容の整理					
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13	成果発表					<事後学習> 演習終了後、レポート課題「看護学研究Ⅱを通して学んだこと」を提出する。
	14						
15	まとめ						
評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。						
参考書・参考文献等	南裕子、野嶋佐由美編：看護における研究 第2版，日本看護協会出版会，2017 山崎茂明他：看護研究のための文献検索ガイド 第4版増補版，日本看護協会出版会，2010.						
備考							

看護学教員養成課程

科目区分	専門分野	聴講	可		
授業科目名	看護学教育組織運営論				
授業形式	講義・演習	区分	必修		
開講時期	後期	単位	1単位 15時間		
科目責任者	茂木佐智子	その他			
担当教員	巴山玉蓮, 茂木佐智子				
授業の概要	看護学教育の提供に必要な組織の構造と機能を教員組織、管理運営、自己点検・評価の視点から学習する。				
学科目的	看護学教育の目的を理解し、看護師養成教育機関の組織運営について理解する。				
学科目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の受け入れ、教育施設・設備、教員組織など看護学教育活動を推進するシステムについて理解する。 2. 看護学教育組織の一員として、組織の教育的機能が発揮されるために必要な自己の課題を見出す。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	看護学教育組織運営論とは	講義	必要に応じて学習課題を提示	茂木
	2	看護学教育組織について 1			
	3	看護学教育組織について 2	講義		巴山
	4	組織運営の現状と課題 1	演習		茂木
	5	組織運営の現状と課題 2			
	6	組織運営の現状と課題 3			
	7	組織運営の現状と課題 4			
	8	看護学教育組織運営の評価・まとめ	講義		
評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。				
参考書・参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・杉森みど里, 舟島なをみ: 看護教育学 第6版, 医学書院 ・田村やよひ編: 看護教員必携資料集 第3版, メヂカルフレンド社 ・看護行政研究会 編集: 平成31年度版看護六法, 新日本法規, 2019 				
備考					